



新潟市立庄瀬小学校 令和6年度 学校だより  
～人、まち、自然がわたしたち「みんな」の学校～



ひまわり

令和6年10月9日

## 「たくましさ」が土台となる

10月の全校朝会で以下のことを話しました。

失敗OKを庄瀬小学校の合い言葉にしているのには理由があります。

全校の皆さんに、たくさん失敗をしながらいろいろな力（学力、思いやりの心、体力）を付けてほしいと思っているからです。そしてそれらの力を付けるために必要なのが「たくましさ」です。失敗しても「負けるもんか」と強い気持ちで立ち向かったり、目標に向かって歯を食いしばって頑張ったり、苦しいときにちょっと休んだら立ち上がって、再挑戦したりという強さを身に付けるといろいろな力を伸ばすことができます。逆に言うと、簡単にあきらめる人は力を伸ばせないことが多くなります。

家や建物を作るときに土台がしっかりしていないと、家は崩れてしまいます。皆さんの土台になるのがこのたくましさです。土台であるたくましさをもっている人は、学力や思いやりの心や体力がどんどんついてきます。だから、この土台を大きくしなければいけません。嫌なことや苦手なことから簡単に逃げては土台は作れません。

全校の皆さんもちょっと嫌なことや苦手なこと、苦しいことに簡単に負けずにたくましさを増やしていきましょう。そうすると、いろいろな力が少しずつついてきます。たくましい庄瀬っ子が増えていくのを楽しみにしています。



子どもが転ばないように、失敗しないようにと心配して、手を差し伸べたくなるのが、大人の素直な心情です。私たち教師もそういう気持ちをもっています。しかし、手を掛けることで、子どもの自分でやろうとする力や頑張ろうとする力の育ちを邪魔しているのではないかと自省することを忘れてはいけません。

ご家庭でも手を掛けすぎていることはないでしょうか。その時はいいけれども、長い目で見たときにどうなんだろう？ここで手を貸さないことが子どものためになるのでは？と立ち止まって考えてみることも必要ではないでしょうか。

ひ弱な子を育てたい大人はいません。親も教師もたくましい子に育ててほしいと願っています。そのためには、子どもたちに時には厳しく接したり、黙って見守ったりするなど、私たち周りの大人も「たくましい心」をもたなければいけないと考えています。

## 大豊作 ～サツマイモ掘り～

9月25日(水)に庄瀬地区農地資源保全会の8名の皆さんからご指導をいただき、サツマイモ掘り体験を行いました。猛暑で出来が心配されましたが、昨年以上にたくさん収穫することができました。子どもたちは、片手では持てずに、袋を両手で抱えて、笑顔いっぱい帰って行きました。



## 弥彦山登山はきつかった!

9月27日(金)に弥彦山への全校登山を行いました。全校登山では初めての弥彦山ということで、子どもたちが全員登り切れるのかという不安をもちながらの登山となりましたが、高学年の声掛けや応援係の励まし、ボランティアの皆さんのサポートなどのおかげで、一人の脱落者もなく全員が9合目まで登ることができました。



また、ほとんどの子どもが奥宮チャレンジに参加し、山頂まで行って、きれいな日本海や越後平野の眺めを楽しみました。例年の護摩堂山よりもきつい山道を自力で登った子どもたちは、大きな達成感を得ることができたことと思います。



## 自分のことは自分で ～学校地域合同防災訓練～

10月1日(日)に庄瀬地区コミ協自主防災部と学校合同の防災訓練を行いました。

今回は避難所設営訓練を行いました。子どもたちはグループで協力しながら段ボールの間仕切りの設置を、保護者はパーティションの設置をそれぞれ行いました。また、今年も8つの体験コーナーで様々な体験をすることができました。

万が一、避難所生活になったときに、自分のことは自分でできるように、ご家庭でも、子どもができることは自分でさせるようにしていただきたいと思います。



(文責：校長 平出 靖)